

東彼林業研究会が林研グループ九州地区交換研修大会に参加しました！ 林業課



発表の様子



表彰状授与

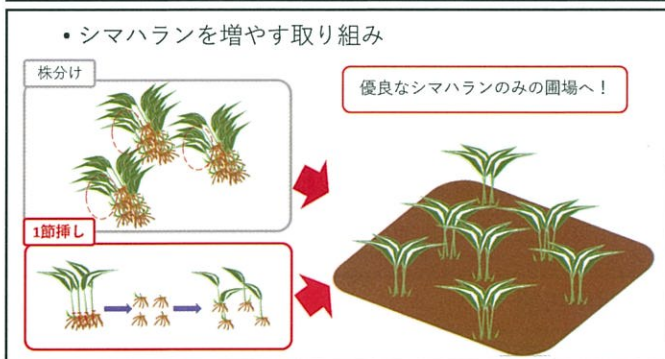
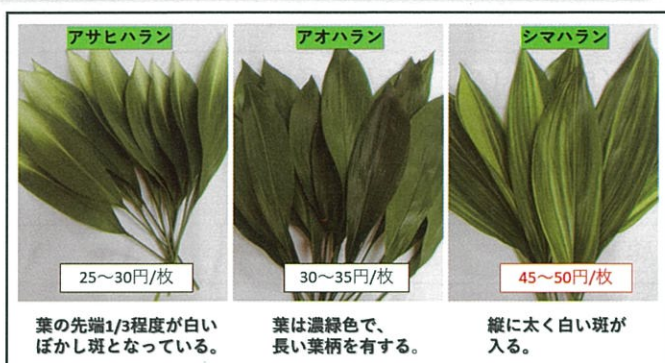


東彼林業研究会 久松氏 松本会長

林業技術の向上・林業経営の発展を目的として、地域振興・活性化を図っている九州内の林業研究グループが活動体験や研究等の成果を発表する「林業研究グループ九州地区交換研修大会」が、令和4年9月に熊本県で開催されました。長崎県代表として、波佐見町・川棚町で活動する「東彼林業研究会」が参加し、松本会長がハラン栽培について発表を行いました。

収益を増やすハラン栽培の難題解消に取り組む～シマハランの増殖に向けて～

ハランは、抗菌・殺菌成分を含むことから料理の装飾等や生け花等で活用される植物です。東彼林業研究会が栽培しているハランはアサヒ、アオ、シマの3種類です。シマハランは、単価が最も高く取引されますが、縞模様が消える「青葉化」の問題に直面していました。青葉化の影響によりシマハランは出荷量全体の15%しか出荷できていませんでした。しかし、県農林技術開発センターとの研究協力によって、シマハランとアオハランは別個体であることが判明し、青葉化の実態は、単価の高いシマハランが優先的に採取されたことにより、同じ植付け箇所でもアオハランが優勢的に増えたものでした。また、今般、「1節挿し」増殖方法が開発されたことから、今後、東彼林業研究会でシマハランの増殖を目指し活動していくことを発表しました。



ハランの生産を通して

発表後は、「研究改善や販売方法の工夫を突き詰めながら収益増加につなげるのが素晴らしい。ハラン生産による地域活性化への貢献が伺える素晴らしい発表であった。」との講評をいただきました。東彼林業研究会はハランの生産を通して、山間部の活性化を目指し今後も「生涯現役」で活動していきます。



ハラン圃場での収穫作業



「生涯現役!!」を目標にハランを生産されている会員の皆様